

「こりやなぎのように」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ こりやなぎに思うこと

11月も半ばを過ぎました。今年も残すところ1月と僅かですね。新たに華道部が飾ってくれた生け花はこれまでになく背が高いものでした。メッセージが添えられています。

『花材はこりやなぎ、スプレーギク、ソリダスタです。最近ますます冷え込み、身の縮まる思いをしています。寒さに負けず、こりやなぎのようにのびのびと過ごしたいです』

上に向かって咲くスプレーギク、その足元を飾るのがソリダスタですね。花言葉は「振り向いてください」。心を開いてほしいと言わんばかりに賑やかに咲いています。その背後に高く聳えるのがこりやなぎ。「しなやかな心」という花言葉はその枝が非常に柔らかく、柳行李などの編み物に使われたことに由来しているそうです。確かにしゅっとして、しなやかです。



思い出した場面があります。かつて職場が学校から教育委員会に変わった最初の年、自分が全く通用しないという無力感で私は昼食が喉を通らなくなりました。そこで昼休みには仕事場を抜け、諏訪山に登るようになりました。展望台まで登り、ゆっくり下りても40分ほどあれば事足ります。そんなある日、道端で声を掛けられます。教育委員会で働くよう私の背中を押したかつての校長先生です。

「なんや、おまえ。その姿は」そう言われます。「鏡で自分を見てみい、背中が丸まっとるぞ。おまえのそんな背中、見たくないわ。しゅっとしとかんか」。心の状態が姿勢に現れます。以来、姿勢に気を配るようになりました。いつ見てもこりやなぎは美しい姿勢です。私もこうありたいものです。

過日の今年最後となる学校説明会には中学生、保護者あわせて400人を超える方が地獄坂を登り、参加してくれました。「一見に如かず」なので、私はこの日も導入がわりに生徒の動画をメインに据えて挨拶をしました。そこからはありのままの神高生を見てももらう時間です。



「どんな自分になりたいのか、リアルに妄想することが大切です。この神戸高校でどのような高校生活を送るのか、しっかりと妄想してください」という自治会長からの言葉は、この日も堂々としていて、確実に講堂全体の温度を上げてくれました。

神高の1年をまとめた放送委員会作成の映像あり、教頭先生からの熱い学校概要説明あり、対面での質問コーナーあり、と盛り沢山の会を締め括ったのは、映像と漫才をmajiedた自治会による学校生活紹介。以下は当日アンケートからの抜粋です。



『生徒さんの話す内容や言葉選びで校風をより感じることができました』『漫才の「教師と生徒」さんを見ただけで学校の雰囲気の良さがわかりました』『吹奏楽部の演奏を見て、「神戸高校で演奏したい」とより強く思いました』『自治会の皆さん、とてもしっかりしていて丁寧に説明していただき嬉しいです。息子も「ここでの高校生活を想像しやすくて、わくわくする」と言っています』。

いつも漫才に挑んでくれる篠倉先生をはじめ、誰もがしゅっとして、しなやかな姿を見せてくれました。ここでの未来をリアルに妄想してもらえたなら、嬉しいですね。

